



TITLE:

和歌山県田辺湾でスジイルカの集団座礁

AUTHOR(S):

山口, 一夫; 久保田, 信

CITATION:

山口, 一夫 ...[et al]. 和歌山県田辺湾でスジイルカの集団座礁. 南紀生物
2013, 55(2): 141-141

ISSUE DATE:

2013-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188348>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

和歌山県田辺湾でスジイルカの集団座礁

山口 一夫*・久保田 信**

Kazuo YAMAGUCHI and Shin KUBOTA: Mass stranding of *Stenella coeruleoalba* in Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

1992年4月から2012年2月までの20年間にクジラ類7種が田辺市新文里港・新文里港から内之浦にかけての田辺湾奥の東側へ7例、漂着・座礁・迷入した(久保田・山口・岸田, 2012)。これらの記録中、集団座礁の例はないが、今回、生きたスジイルカ *Stenella coeruleoalba* の複数個体が次々と数時間の内に集団座礁し、田辺湾ではこのような現象の初例となったので報告する。

2013年3月14日午前10時過ぎ、通行中のドライバーから「和歌山県田辺市新庄町滝内の内之浦に複数のイルカが迷い込んでいる」との連絡が会社を通じて山口に入った。午前10時半頃に現場に到着すると、岸から20-30m沖合付近を1個体のイルカが遊泳していた。そのイルカはだんだんと接岸し、岸から数mの所まで来てくると回り始め、午前11時前に新川河口近くの浅瀬で座礁した。このスジイルカは何度もひれをばたかせたが、この時は干潮時でもありその場所から脱出移動ができなかった(図1)。11時15分頃、大きく水しぶきを上げて暴れた後、体を斜めにしてくちばしを海中につけたまま動かなくなった。その直後に田辺市職員がウェットスーツを着て到着し、そのイルカに近づき、座礁後約30分を経過した11時半頃、死亡を確認した。その直後に県職員が体を調べ、「全長約2.5mで歯がぼろぼろなので老体とみられ、老衰の可能性もある」とのことであった。

続いて同日の午後2時半頃、上記地点より南西方向に約200m離れたローソン前の海岸に、「イルカ3個体が打ち上がっている」との連絡が会社を通じて山口に入った。それらはいずれもスジイルカの新鮮な個体ばかりで(図2)、上記の個体に引き続き死亡したと推察される。県職員の調べでは、「全長2.3mが最長で、その中の1個体はまだ若い」とのことであった。これら計4個体のスジイルカの死体は田辺市がごみとして処理した。

なお、その4日後、上記の場所から約8kmほど離れたみなべ町埴田の二子の浜に1個体のスジイルカが死亡漂着した(図3)。この個体も上記の集団の一員かもしれない。なお、スジイルカの座礁は田辺湾近郊では白浜町



図1, 2 和歌山県に所在する田辺湾の奥部で座礁前後のスジイルカ



図3 和歌山県みなべ町埴田の二子の浜で座礁したスジイルカ

椿での1例1個体の記録がある(岸田・田名瀬・久保田, 2005)。

引用文献

- 岸田拓士・田名瀬英朋・久保田 信. 2005: 和歌山県白浜町椿の海岸に漂着したスジイルカ *Stenella coeruleoalba*. 南紀生物, 48 (1), 30.
- 久保田 信・山口一夫・岸田拓士. 2012: 和歌山県田辺湾に最近の20年間に漂着・座礁・迷入したクジラ類(哺乳類). 南紀生物, 54 (1), 79-80.

* 〒646-8660 和歌山県田辺市秋津町100 紀伊民報編集局報道部

** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所